NEWS RELEASE

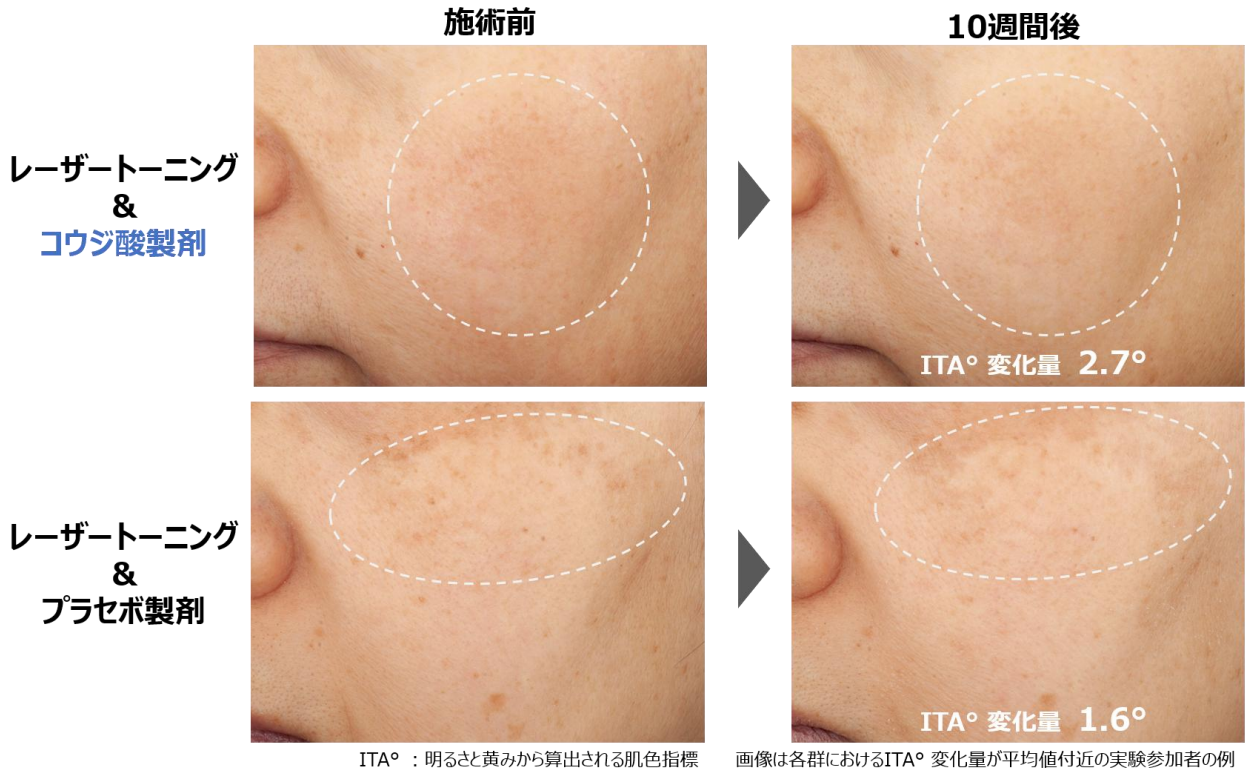
2026.11.24

肝斑へのレーザー施術とコウジ酸製剤の併用効果を実証

肌の変化は、心をも変える。

株式会社コーセー（本社：東京都中央区、代表取締役社長：田中 慎二）は、レーザートーニング施術※1 にコウジ酸によるスキンケアを併用することで、シミの一種である肝斑に対する改善効果が高まることを実証しました。色素沈着の原因であるメラニン量の指標や、明るさと黄味から算出される客観的な肌色指標 ITA° においても、施術のみの場合と比較して有意な改善を確認しています。また、この併用は施術に長い期間を要する肝斑治療において、生活の質（QOL）の改善効果もより高まることを心理指標分析から見出しました。

※1　低出力、高頻度に複数回照射をおこなう、肝斑などに用いられるレーザー施術



ITA° ：明るさと黄みから算出される肌色指標　　画像は各群におけるITA° 変化量が平均値付近の実験参加者の例

図 1　レーザートーニングとコウジ酸スキンケアの併用効果

研究の背景

肝斑は顔面に左右対称の色素斑を生じるシミの一種で、主に 30 歳以上の女性に生じやすく、女性ホルモンの変化や紫外線がその発生に影響していると言われています。頬の広い範囲にシミが現れること、また治療には長期間の医薬品服用や複数回のレーザー施術が必要であることから、シミの中でも根深い悩みであると考えられています。そこで本研究では、この悩みにスキンケアの面からも寄り添うため、肝斑の治療に用いられるレーザートーニング施術と、医薬部外品の美白有効成分であるコウジ酸を配合した製剤を併用することの有用性を検証しました。

レーザートーニング施術とコウジ酸製剤の併用で肝斑改善効果が向上

本研究では、40～65 歳の女性の実験参加者 54 名を 2 群に分け、どちらも 2 週間に 1 回、合計 5 回（10

週間）のレーザートーニング施術を行いました。試験期間中は 1 日 2 回、スキンケアを継続してもらいましたが、片方の群（28 名）にはコウジ酸製剤、もう片方（26 名）にはコウジ酸のみを除去したプラセボ製剤を使用してもらいました。施術前および施術後 10 週目まで 2 週間おきに肌測定を行い、2 群間における肝斑の改善効果を比較しました。

その結果、色素沈着の原因であるメラニン量をメラニンインデックスで測定したところプラセボ群でもレーザートーニング施術による一定の改善効果が確認されましたが、コウジ酸群ではプラセボ群に比べ肝斑部位におけるメラニン減少効果がより高いことが確認されました（図 2）。

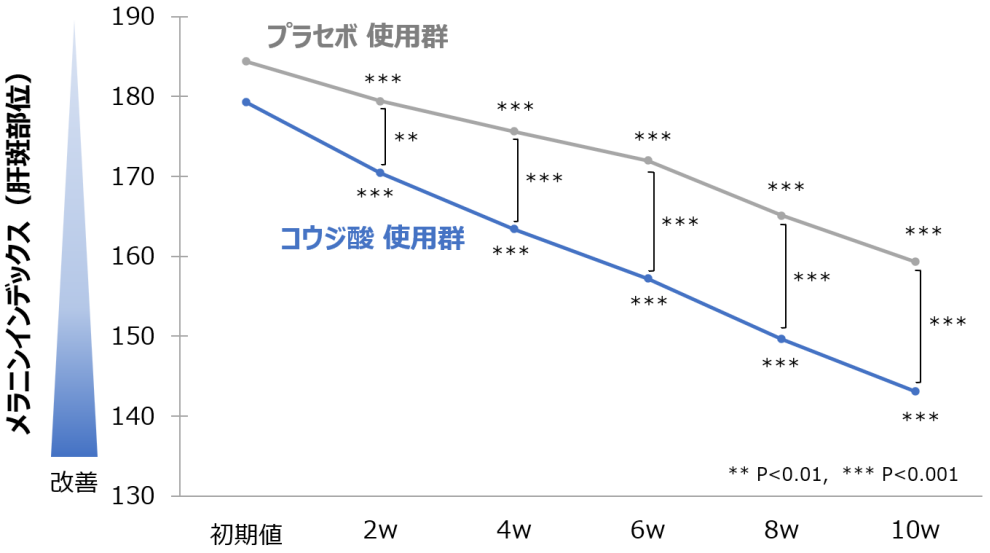


図 2 メラニンインデックスの改善効果

施術効果の客観的な指標として用いられ、明るさと黄みから算出される肌色指標 ITA° においても、コウジ酸群ではプラセボ群に比べてより高い ITA° 改善効果が確認されました(図 3)。その 10 週間後の改善効果は各群の平均値でコウジ酸群は ITA° 2.8° の改善、プラセボ群は ITA° 1.0° の改善となり、その差は 1.5° 以上の有意な差となりました。

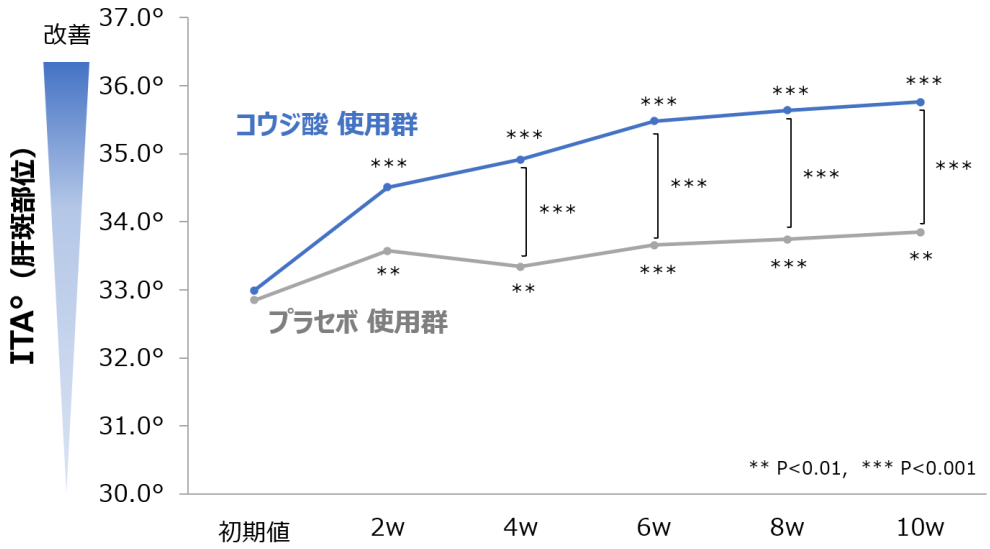


図 3 肌色指標 ITA° の改善効果

外観においてもコウジ酸群のより大きな改善効果が確認されており(図 1)、レーザートーニング施術とコウジ酸製剤によるスキンケアの併用には肝斑部位のメラニンを減少させることで肌色を改善する相乗効果があり、より大きな肝斑改善効果が得られることを実証しました。

併用効果により、肝斑に悩む人の QOL も向上

また、本試験では実験参加者の生活の質(QOL)に与える影響も評価しました。肝斑は頬の広い範囲に現れることが多く、治療にも長い期間が必要であるため、心理的影響も大きいと考えたためです。QOL の評価には、Melasma Quality of Life scale (MELASQoL)を用いました。肝斑のある肌状態が自己肯定感や他者との関わりに影響を与えているかといった 10 問の設問に対し(図 4)、1:全く悩んでいない ～ 7:いつも悩んでいる、の 7 段階評価で回答するもので、合計スコアが高いほど QOL が低下していることを示します。

施術前、6 週間後、10 週間後で評価を行ったところ、コウジ酸群はプラセボ群と比較して、スコアが有意に減少することが分かりました(図 5)。また、肝斑の改善効果と MELASQoL スコアの改善には相関が確認されたことから、レーザートーニング施術とコウジ酸の併用により肝斑がより目立たなくなることで、肌だけでなく心まで前向きになることが示されました。

MELASQoL 設問

1 全く悩んでいない ～ 7 いつも悩んでいる で数値回答
合計スコアが高いほど、QOLが低い

1	肌状態の見た目
2	肌状態に対する不満
3	肌状態に対する恥ずかしさ
4	肌の状態に対して気分が落ち込んでいる
5	肌の状態が他者との関わり方に与える影響 (例：家族、友人、親しい人など)
6	肌の状態が、人と一緒にいたいという気持ちに与える影響
7	肌の状態の影響で、愛情表現がしづらい
8	肌の色素沈着・ムラの影響で、他人に魅力的に映らないと感じる
9	肌の色素沈着・ムラの影響で、活力が湧かなかったり、生産性が低下していると感じる
10	肌の色素沈着・ムラの影響で、自由な感覚を損なっている

図 4　MELASQoL 設問

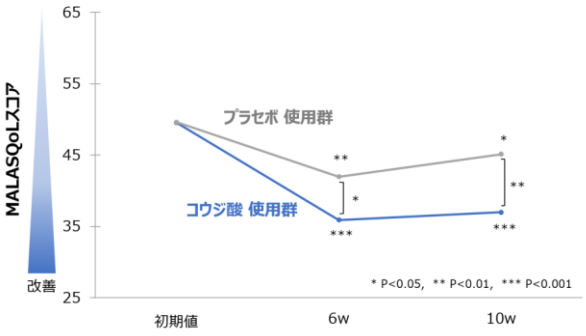


図 5　MELASQoL による QOL の評価

今後の展望

本研究により、コウジ酸製剤によるスキンケアを併用することでレーザートーニング施術の肝斑改善効果をより高められることが分かりました。その影響は QOL のより大きな改善にも表れており、肌と心の両面に対する有用性を示すことができました。この知見は化粧品と美容医療の相乗効果が、より高い顧客満足に繋がる可能性を示しています。今後も、お客さまの悩みに寄り添った新たな商品やサービスの研究開発に挑戦していきます。